



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第9号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第9号). 泌尿器科紀要 1961, 7(9): 880-880

ISSUE DATE:

1961-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112184>

RIGHT:

編集後記

現行の健康保険制度には種々の欠点があり それを是正する方法として 療養費払いの併用が 近頃 一部に於て 主張せられている。これは 医育や研究を目的としていない医療機関に於ては 現行法だけであるよりも より良い事であろうと思われる。然し 医育 研究機関である大学病院に於ては 果して 妥当な方法であろうか。先ず 本法は 富める患者には適用出来るが 貧しい患者には適用出来ないのである。斯かる事は 大学病院の如き機関に於ては適当ではない。大学病院に於ては貧富に拘らず 必要な診療が行われるべきである。次に療養費払いに於ても 審査を受けて 健保基準の範囲内だけの払戻しを受けるが それ以外の分は患者の負担になる。そこには明かに 枠 即ち制限が存在している。即ち療養費払いという観念の中には制限が蔽存しているのである。自由診療のように見えるが 実は厳然として枠が存在し 然もその枠は従来よりも厳しく守られるであろう。制限診療の緩和を要求するならば あくまでも それを要求するべきであつて 療養費払いの方向に行くべきではない。次に現在でも大学病院の第一線の医師にとつては 事務的に甚だ煩雑であるが これが二本立てになると更に面倒になる。診療の開始に當つて 現物給付制をとるか 或は医療費給付制(療養費払い)をとるかを 患者と折衝せねばならぬ。それによつて診療の方法を変えてゆかねばならぬ。こんな事は極めて煩わしく 医育や研究のために 何の役にも立たない。大学病院に於ては 医育に於ても研究に於ても 必要にして最良なる検査と治療を行わねばならず 然もそれは患者の貧富によつて区別を付けることは出来ないであろう。貧者は現行法で 富者は療養費払で というわけにはゆかぬであろう。本来ならば大学病院は健保から離れるべきであるが それが出来ねば健保制限の緩和は勿論の事その他に別途に研究費を要求するのが本筋であろう。国家には当然それだけの義務はある。尚 健保としては研究に要する費用は絶対に負担出来ないとの考えが多いが 然し研究によつて健保診療の内容も向上してゆくのであるから 研究を委託していると考えたならば 健保は研究費には全く関係がないと云うのも やや虫が良過ぎないであろうか (昭和36年9月)。



購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名: 誌名、巻数: 頁数、年次。
例。中野: 泌尿紀要, 1: 110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します 抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 600円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集部が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。